開腹大腸癌の手術を受けられる患者さんへ

［手術日］　　月　　日［手術時間］　　：

様

この予定表はおおよその目安です。患者さんの状態や治療の経過等により、予定が変更になったり入院期間が前後することがありますのでご了承ください。わからないことがありましたら、遠慮なくスタッフにご相談ください。

担当医

説明看護師

月日	/	/		/	/	/	/		/
経過	入院日　手術前日	手術前	手術後	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5～8日目	術後9日目
目標	手術にのぞむ準備ができる。		術後の安静を守ることができる。	痛みのコントロールができて動くことができる。		食事を食べて腹痛がない。	お腹の管が抜ける。	食事が半分以上食べることができる。	退院後の注意点がわかる。
処置	お臍をきれいにします。 肺塞栓予防のために着用するストッキングのサイズを測ります。 手術用バンドをまかせて頂きます。	弾性ストッキングをはきます。 メガネ、入れ歯、貴金属、時計などははずします。	酸素吸入をします。→ お腹に管が入ります。その他、鼻から管が入ってくることがあります。 背中から痛み止めの管を入れます。	酸素は朝7時に外します。 回診で傷の状態をチェックします。→ → →			回診時にお腹の管が抜けます。 ※抜ける時期は変わることがあります。		
					回診時、背中の痛み止めの管を抜きます。				
点滴	※食事がとれない方は点滴をします。		点滴をします。→ 血栓予防の皮下注射があります。→			点滴終了 ※食事の状況に応じて続ける場合があります。			
お薬	お持ち頂いた薬を確認させて頂きます。お持ちであれば、お薬手帳も持参して下さい。 下剤：15時　21時 抗菌薬：12時・18時 ※手術2日前入院の方は、6時にも抗菌薬があります）	指定された薬があれば朝6～7時位に内服して下さい。		痛み止めとお腹を動かす薬の内服が始まります。 持参薬は医師に指定されたものを服用します。					退院処方がある場合はお渡しします。
検査	採血 下肢静脈エコー検査（平日入院の場合のみ）			採血 レントゲン		採血 レントゲン		［術後6日目］ 採血 レントゲン	
食事	繊維の少ない食事をだします。 手術前日の昼食後より食事はとれません。※禁食の場合もあります。 OS-1を1500ml（昼2本 夕1本）配膳しますので、少しずつとって下さい。	水分やOS-1が摂取できます。 ・午前手術→朝7時まで ・午後手術→朝9時まで	食べたり飲んだりすることはできません。 うがいはできますので担当看護師までお伝えください。	状態により水分がとれるようになります。		術後の経過を見ながら少しずつ食事が始まります。			
安静度	制限ありません。		**手術後はベッド上安静**になりますので、起き上がることはできません。体の向きを変えることはできますので看護師までお伝えください。	術後の経過が問題なければ、歩行できます。 初回歩行は看護師が付き添います。	制限ありません。 術後の肺合併症を防ぐためにどんどん歩きましょう。				退院後、激しい運動は避けて下さい。散歩程度であれば問題ありません。
排泄		排便があったか確認します。	手術後は尿の管が入ってきます。排便はベッド上で便器を使用します。	尿の管は挿入したままです。排便はトイレで行えます。	背中の痛みどめが抜けたら尿の管を抜きます。				
清潔	シャワー浴をします。			温かいタオルで体をふきます。→ 歩行して問題なければ、弾性ストッキングを脱ぎます。			お腹の管が抜けたらシャワーに入れます。 傷を治すためにシャワーに入りましょう。		入浴は医師の許可が出てからになります。
説明指導	入院時に普段の生活や過去のご病気、内服している薬についてお聞きします。看護師より必要物品、入院生活、手術後の経過について説明します。		手術後、主治医からご家族に手術経過の説明があります。 **痛みや吐き気などの症状がある場合は、我慢しすぎずに看護師にお知らせください。**					［術後5日目］ 栄養士から食事についての指導があります。	午前中に退院です。ご都合がつかない場合は看護師にお伝え下さい。 退院の書類を受け取ってから手続きとなります。診察券などお返しします。
その他	外来で手術同意書を記入していない場合は、入院後に医師から説明があります。	ご家族の方は、手術予定時間の1時間前に病棟へお越し下さい。9時予定の方は8時半ごろお越し下さい。 貴重品等はご家族に渡して下さい。	手術後はご家族の付添は必要ありません。当日は安全管理のため、ナースステーションに近い病室へ移動することがあります。	通常通りの面会時間にお越し下さい。				次回の外来の予定日の説明をします。 入院日の概算が必要な方は早めにお申し付けください。	

退院後、吐くことが続いて食事が取れなくなった際は、腸閉塞の可能性がありますので、早めに受診して下さい。
高い熱が出たり、傷が腫れる、痛みが増すなどの症状がある場合も、次回外来を待たずに受診して下さい。

済生会横浜市東部病院　消化器センター／外科　2015年9月11日改訂